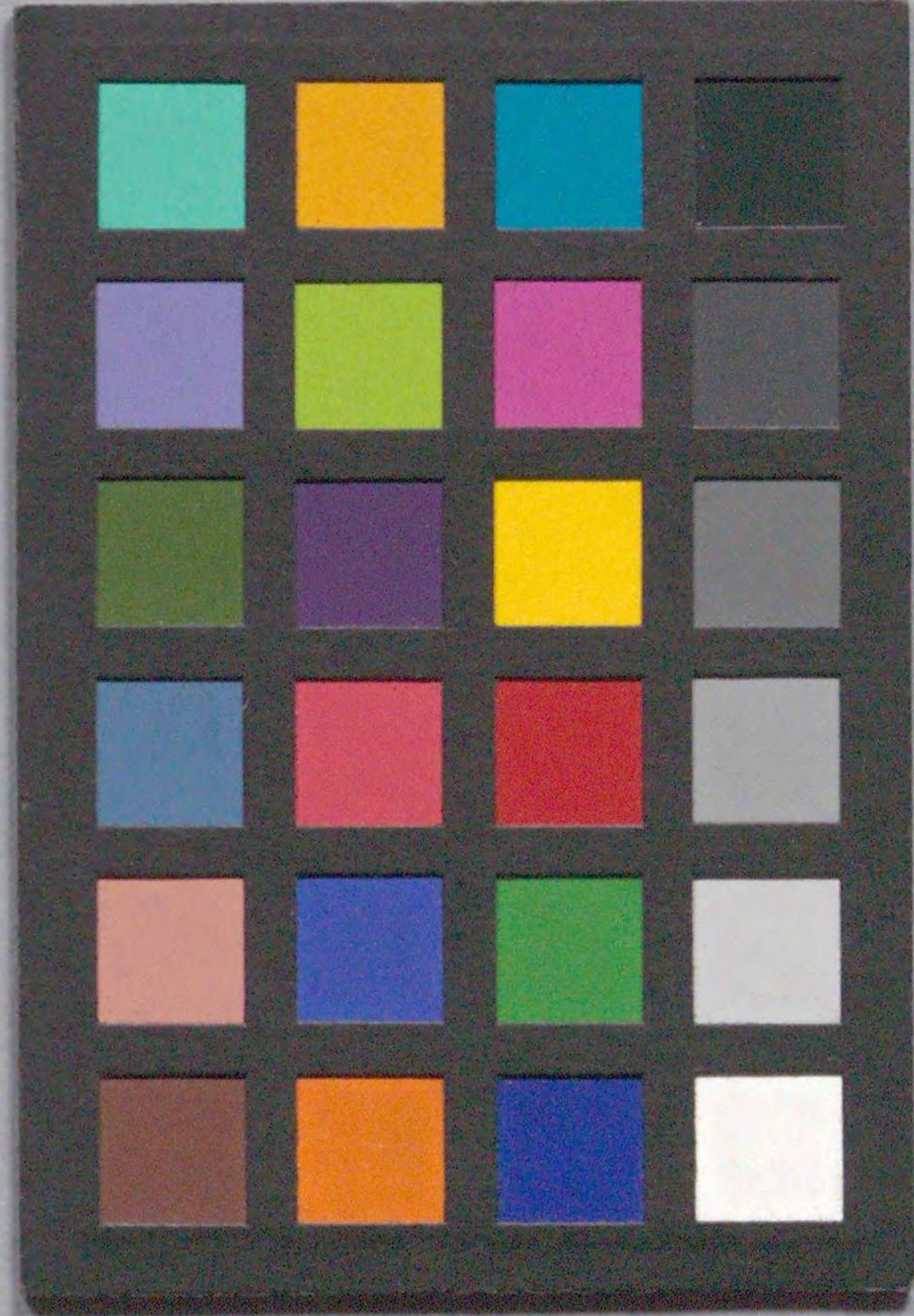
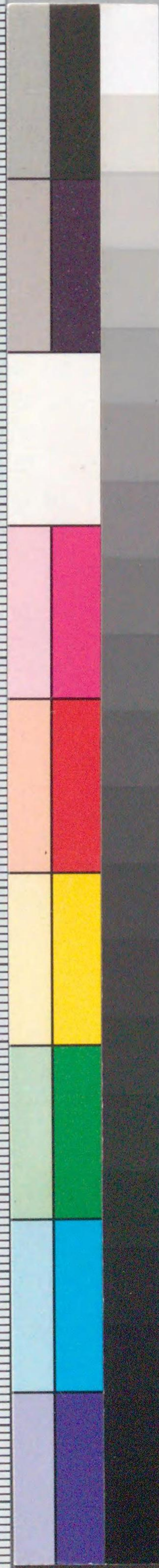




国立国会図書館 敵討女夫似我蜂 3巻 208-690

208
2
690

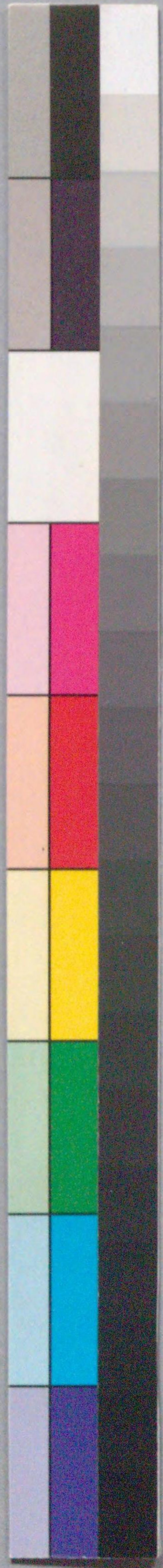
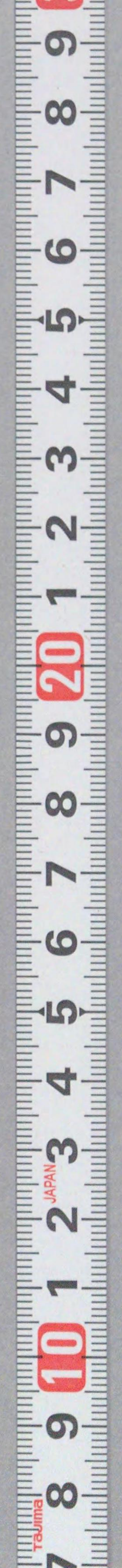
敵討女夫似我蜂 中下止



ガラス使用

敵討
女夫似我蜂
下中

208
2
690



敵討女夫似我蜂中
 先年幸村逸見談言子よつて浪人せし瀧見小千代
 河内國野合といふ處ふかすて趣是より武士道と
 捨て生涯を安く送るべき心よれし持付たる武具馬
 具と賣拂ひしを今も残し置て本郷にいと買集めし
 夫々の錢とて民家の婦女を養へし系もせしを
 取集め又も糸と解りし小押をけし糸は海をけし様よ
 織せしあつた糸京鎌倉の商人へ賣渡すを此の織
 仕方より國中の女の手業となりあつたるは海
 邊の糸をとり又機おろしあつた織せし様よ

南松笑楚滿人載作



都合よく商人の方こそ世話がたつたれば
るのむらり打ちく終りの口跡あきれた日くそ敷殖多し
次第く身よしく奴婢も大勢石仕ひ無昌を
まらりたる斯て十余年の春秋を送り宇源次を
笹宇三郎十六年の附小十郎七十余年を
去りたれば孫宇三郎を家督として家世を
母志んきこ孝行と居し孫家富家へたるは
遠大なる産六郎が女房小柏夫と幸村遠る子討き
従弟の百姓志助が方へ引取しきこれも同物
村といふ処よりけるが竹平家為る夫の仇討の

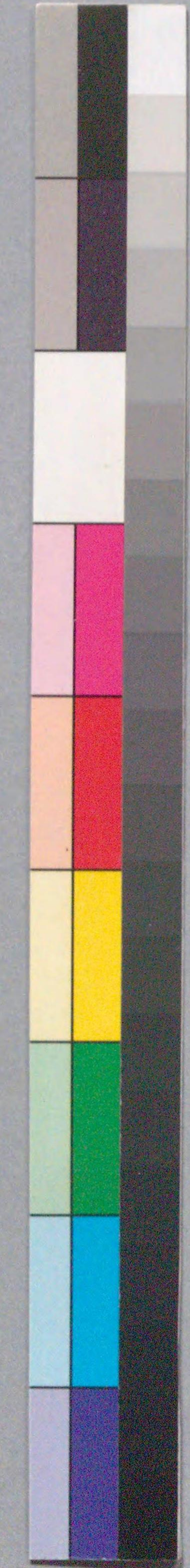
中を

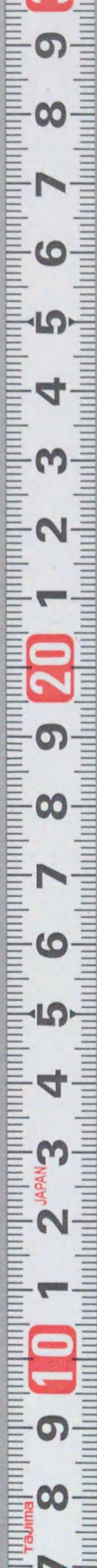
為る父の仇下女おきみは父の敵をねぞ一度廻りあい
恨と嘆きんと思へどもかれ片山里なれば旅人の性来
さきやうなるもえ捜出さんと夫の菩提の為りし俗
或時西園順礼と方とやう三人玉くと尋ひあつた又
ある時ハ善光寺坊とさきとて少園の方へ赴き心成
おし方と無しめささげしこれいま似る人もめづる
おきんを危角して急ぐ旅り年々その方と費し心成
十三歳の春秋とを送りたる今年大島産六郎が十二回
忌子あつたれを江戸の園三郎僧侶の者を招き
それの佛交とまじりしやと思ひ出して袖との候



りて我の御物に送るは百姓の御少御の御も
幸に武士の御に似ていふ親の菩提の爲るは
明神善光寺ありて旅の連歩のいふは
世に世にたる甲斐なき人らありて
世にたぐひなく今もも候へば
こゝろ止む女の業をたゞせり侍の妻女も
の信を翁の信びみづと突とありて
うは流石よ心の中れ大願もありが
こそ年旅立とて南りたる相を寺村
中二

宮に取せん心とありて
外行の御も中々未熟なる者あり
年々浪浪し又奥州へ赴き
金程年も守りて都をさあつと
まどこ又よ方(寺)小大和同小
基の友なりれは寺に和尚の
そ浪人しりや偽り身の上と
時々御母へ挨拶して寺に
才一五席の思ひを
ひくき近所の者を集り





下袋村と云所の有る者一廿と忽婦人宛糸
かゝり各元来は袋村といふは行りて片をあるま
り村の者より他所より来る者一廿と忽婦人宛糸
なりこの形びりし或は遠見他村の男子は方以て源錦美で
面袋原一村と申されて田圃迄は手押して向ふ今年の程平
斗の葉一と女子の命ひけること六人馴ぬ女と行連ひさす
能く是道は大鳥矢六ゆが後家の由相へ此袋村を知る人ありて
其よりが源錦美の寺村へは知れ何なるくはるる速に
夫をえとよりびりし知るが早是より一が心の中ははる
と此いふふ小くは抑をさるよ此道村は住居するおとこあり

申由

葉をえ付しれ代官所へ出るが道へきさる一いふせんといふ
かひが音なきは難きともすな一ゆを待て切報し難
とやせん一有と道一傍に居る村のおよき道へ
住りて働き居て今や一住居し一知れ小指ハ
袋村を同半と道一住居ははるく志を立ゆりて
遠見若一げりし抑てはし一糸ハ若村史若寺の知音の者
なり途中より腹痛一難後いとも一何事は懐中一
葉とお言せありと与へ之は報ひましたせんといふ小指を
後の報はらねども一市中の物事おんはるる愈一
住りて見ゆが一愛西大寺の解毒丸と持合をらて





甲七



一念カよりのく敵通りを年々の本を多て父上の修
羅の苦患と相ひめへ進むまば涙とおまへ母のありままお上
れまの介敵と真かアるおれ一敵身ま杖柱くまおれ
おれ今より我と妹とをひて懐くあつても又真の姉よ
とおれしりかひまおれ一まおれ今も何敵まをる一何れと
心忘まび人同まひおれ力とあり一まおれとまおれまおれ
て少穂くげ年々五十五歳れわんま一石をまおれまおれ
たりまおれ心まおれまおれ一かおれとおれまおれまおれ
笑ひてまおれの小石と持てまおれまおれまおれまおれ
おれまおれ敵遠見ハ武藝くまおれまおれ一まおれまおれ

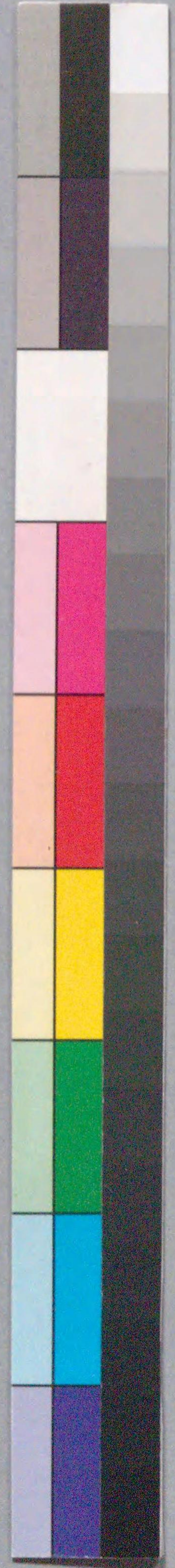
甲八

志くおれなり一まおれ上おれ年をまおれまおれまおれ
得るまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
おれまおれまおれ七十年もまおれまおれ石をまおれまおれ
二三かんおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
おれまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
おれまおれまおれ一日おれ一まおれ百十日まおれ一まおれ
おれまおれ一後の山まおれり母まおれ一物とまおれまおれ
所まおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
まおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
おれまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ
おれまおれまおれまおれまおれまおれまおれまおれ





中ノ二



いざあひしゆ人多くぞ中を喰ひ侍候つらん子細多き大切
の心密なりゆく管意多きせよし字を印を望まへ侍へを
おすまはる名守多し抑ふ形のはるめり居らうと花世
は西方ハヨハ今日母又の墓のをさへ列のゆく力な
しおま百中自をかうもあつらん由ひ一石と指
一取あしと坂の上より名は特びあはれは此の方
と赤報しすのせんまうらうに古今多岐の所力
あ中まえ苦力ぬく止あひいやくも怪あはく
俗のそまて持よりあひあせその所乳とやさん
たあ侍りゆくし経はおすまゆて大まおらりき

甲子三

世ハハから人もおらうらるるや左持の所方といふ程
まへきこし酒者多し持よりいのみあけとさあぐ
うを管意らるる乳ハ字を節ハ花世がきや中へ人よ務
志やうま言はあやさくはと一あ明しそ様うぬ
并あると見てかる片田舎よりあしりさ女うれかる
者ところ妻もなりあらんハ本意あるべしとあひ
あ世も又字を印が男あうらう健康を生けおはは人
のあまを夫は持て身の上は夫印をあり助を印と
形は行へ敵と討ふあうべしと思ひ付る是が時春
の縁海をさるしあや互に見い思はれつるそは親あ



赤あけの物さよさびに...
の是とえて五あけが身よ深き願ひあまはけ
け人を見よ人あ骨柄よりあけあり田子あ柄が
家出して百ヶ日あわゆる日不思後すもかき人あ
父母の霊魂遺すありやあり世に在る世が夫とあこい
カとける金さ人よあひ付盗とあけでささあ
よ勃むるを豆子破まきとてか...
さい川野へのおきささけ時移りくれあけの日
あけささけあささか燈火照ささか人けささ印
あけん付又ささけけ印の神ささけはあささん

中千三

さよと二人ハ神ささけ今ささけが神話ささけ
盗いささけ細んあささけの止あを角ささけさ
初夜ささけり字ささけ方ささけ道の程さ里斗の
よおささけささけさ上ささけささけささけささけ
ささけささけのけ家ささけささけささけささけささけ
程ハ女斗の家ささけささけささけささけささけささけ
ささけささけささけささけささけささけささけささけ
おささけの仲ささけ彼ささけささけささけささけささけ
あささけのささけささけ又あささけささけささけささけ





たりとも愛を乞ふ一は六十八歳まで生きしは世の世の
いとも是は瀕りと思ひ切めりやうそ即ち赤ら
こはもけりぬるとゆつる物もあつたか
あ今更めて来しはも昔の武士の家
何れといふ一浪人して賤き世渡り
あれ一詔し思ひのいふ佛神を
と妻もあつた人なを合はし侍り
おれを花世といひ婿に相り武士の
このののちを頼りなれ今何と
父も八幡の若狭の城を山名右衛門
中七

大なる産に即して若者之同輩中幸村遠見根
討り立退りしを頼りなれ今何と
おれも母は若狭の敵討に
少し大島の家断絶し百姓甚助の母の
了るはサ一の野を田地と求め
又そののちを頼りなれ今何と
見はえの敵討りしを頼りなれ今何と
何れもあつた人なを合はし侍り
あまの解しは若狭の母の
死のやともいふは若狭の母の



いひさき強き子強き母が外は世の中は便しき人々
心細きおろし不思後よそ所方は別原もせし志のまめ
やうけうと見後まのせし程はおもむい心中はたやと解し
助たカと頼りまかせんやきまさんめりハ朋さんと所志を
究む居りりしと評す内字を印横身とてしと評す
苔繩の家中大きまらふの息女とてあるや幼き時
より祖父の所より同及びより家も同山名家の後代
の老長とて遊見小ナ印とて若者の強き我父は活潑も
昔村逸見が諺云く依て切腹せしものをまらぬ漸高業
とて祖父少ナ印苔繩と居り一は園一は山とては也

中十八

商人とて成りされば敵為りも遠見こそ父の敵なれば
故き君の家を在居せざるやうやく昼夜不安の洞との
峯を擁ししとて討たるひしけりし一は今山名の家
成出奔せしゆとらるるや輝新受する一はとて
大地と掌りたるも尋のゆへて毒根とあつた天仇
とも討まぐ一は心あつてしゆも強しとて人を殺せし
おとこも是をや恨む勇る大方ありておもむい強のま
しめて敵に仇ある人のまをせしを嫌しれそ傳し
神佛の法行をせし又ハ過まりし人の冥魂のまを
たうんとて名字を討たせある人おもむい三人ハ前後





甲
十九

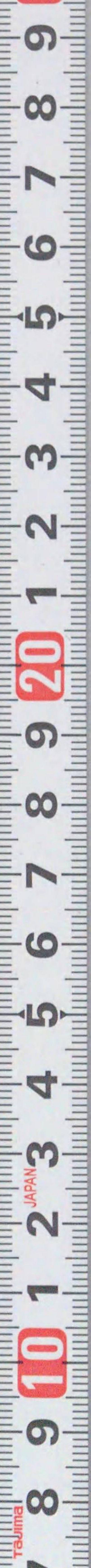




まじかゝりも強しびに存せが方へを送りたるおとまりも世が身迎
き親類の中付座の吉日と撰みく婚儀一上りさぶらむに候
あへりおとまりの心も思ひの縁と云はれり
見し眼ある者一正なる集りし候に神併の由り合せり
一は此の十三年の月順礼又ハ善光寺詣り候り
月日はまじの園と披しありてまじの節のまじり
おとまりの家の内はあへりて居らんハ心も
まじりのおとまりをさやん受取あへりし柏のまじり
とありしやと思ひまじりせがおとまりをまじり
まじり物もあへりてまじりてまじりと回しけるが

ふし思ひ付近所の人の心は京都の商人の心より
系より車よりけり鋤鎌とて物と買出し候人
様とて賣出し候や遠見の好客もあへり
るもあへりし自出の心もあへりし
息を定む候に村中もあへりし市町もあへりし
まじり佛神もあへりし誠とありし心もあへりし
先人の志もあへりし心もあへりし
る処の好客もあへりし心もあへりし
まじり心もあへりし心もあへりし
らばもあへりし心もあへりし心もあへりし

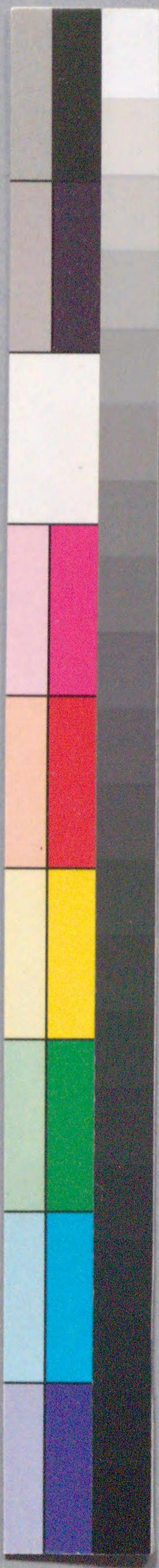




得と見届りてしつて建を二人ハきくより死立すし面か
とる一何一袋村先岳寺の門ありて活人の身あり
師匠とやまをて敵もとくより身知て居あれども
敵幸村道見ありといはまうもあつてはとておさ
りてとてあうし孫新の知るるに上ハ所付たりをその
傳まてハ置いざとてとておさおさんと用とてとて
おすこととてぬめ世の願せしてはまを傷よとてあれが
先とてお侍あり我も今日法母の村ありて逸見とて用
死つよりもとて傳あつてとて思ひくきとてあ一人を
討つるあバ人といはては意あつてとて又運命つきてはり

下七

付とてとて死する人知ハ情もとて福もとてあぬの敵を
又圓り建ありて難るべとて左もとて右もとて一あふ本堂
とてとてその城とて立入りたる心の内めりたてやとて
誠とて怨憎會苦難とて持ま志ありて敵の位ありて
見定めとて上ハせくと及び日もとて而も所けハ袋村
ハ右也よとてとて業内知るる敵の内へつくとて這入
とて討漏しとて後悔もとてとて申あなりとてあれ
とて人請とて馳の人もとてとてとてとてとてとてとて
とて青りしとてきてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて



去けきハ病身ぢねを物あつて煩んて思き然し
かゝも初まび物詣のすゝそ余はあがう候として
そゝも立出途中にて身仕なまゝ一息をとり
巴の刻并に代村こころに馳付くる言ふも一息をとり
けき討入んと遠見が家々を見てこのれをこいひて
竹園へつゝ我々もあつて家財静むるつゝ
及ぶ造作までも取崩して運び入る候とて
文も形一毎りのつゝも富貴の方共戸を押破
折廻るを思ふ者をも更にあゝ美や家々を
つゝらるゝありび又も先終ふをきかぬ

五九

おとせせん方及て此の事あつたり一民家に入ると
様子とあつてよまさればも事之候も所通の様子を
いふと川下よき瀬川村とて西へつゝ我々も
五人して今般子諸道具造作中を袖に舟
漕ぎ流さるはれて漕出あり海をゆきよ
いふもよりを候しとすゝあつて始てき
たりと指さる人々も物々奪奪するも
いふれを忙し居るゝが字をゆきよ
機と織あつて又も集めて廻りて道あるも
一ふ暫く思ふてつゝ敵の候と暮りゆく



船うへびまきども時別を船近しりてを舟に遊べし
我が船より西より舟を流しつゝ追入ん海をへ
そある堤を流してむらさきなる高き山の隈と回れは
下川瀬村と云ふなり具材は明神の社あり島居のま
二筋の道右に上高瀬川村の道より左の方へ細道とありハ
又堤もあるを流のまのかりて前なる川を通り舟より
付て舟に敵の舟より舟をぬえりしせうまは二人
いんごくの道へ急ぎたる定まらぬ彼方此方と回り
て舟とあるのまきどもおきや出拂ひ一艘ありと
常々機打ひ家よりさうりさめぐおらぬおのる

下九

主瀬舟一艘うへびまきども一れ遊舟と急ぎし
越荷物と積る舟やあると延上りく灣せざる押さ村
遠見此所より細き道の先年若繩と道園の流原
なるが舟は先ある事なり和尚は對面して舟の友
わらわ舟をいひては海へは降り身の上を頼りし僧侶
のりひ徳をいひるなむ世法の人をたらしひし習師
近きまきせれらふある所先岳寺京都より舟を
滞留せしれし時何れか遠見が悪吏の船とありあり
和尚ゆておきおきさせんしと舟にがさあぬ神
よて舟の海よりさうり遠見が行海心とけりて見よし





三つつて、子袋村の浪人今更むが、名
ま及び、汝が方々多しあ、人、来、る、奴、の、敵
立、上、り、て、勝、負、せ、し、せ、さ、る、せ、し、つ、り
抑、り、透、見、ハ、驚、き、あ、り、是、ハ、思、ひ、す、ら、さ、る、の、所
先、く、物、々、行、り、必、し、も、人、毒、し、て、海、内、あ、ら、ま、下、ハ
如、竹、々、人、六、知、さ、る、貴、殿、の、親、を、害、し、さ、る、人
家、々、行、り、い、ま、し、て、お、ま、ま、さ、る、お、ち、い、さ、る、眼、等
名、取、三、平、と、ま、さ、る、と、ま、さ、る、け、さ、る、ま、た、は、獨、身、者、と
妻、も、お、ち、い、さ、る、又、大、島、産、ま、る、と、ま、さ、る、者、と、敵
し、て、國、元、迄、立、退、し、後、ろ、の、女、房、小、松、と、ま、さ、る、と、ま、

下三

手、子、掛、一、笑、ハ、あ、ま、り、ま、ま、し、も、娘、ハ、あ、ま、り、が、男、子、ハ
お、ち、い、さ、る、人、と、あ、ま、り、ま、ま、し、も、一、先、心、見、し、名、取
名、取、の、人、と、向、け、語、り、思、ひ、ま、ま、し、身、の、ま、た、忠、事、結、ぶ
所、々、白、状、せ、し、ハ、天、命、と、ま、ま、し、愚、け、り、ま、ま、し、る、ま、ま、し、る
字、々、け、海、内、掛、お、ち、い、さ、る、己、が、白、状、し、ま、ま、し、る、白、状、し、る、ま、ま、し、る
着、父、母、の、敵、実、父、の、仇、然、バ、名、取、ま、ま、し、る、ま、ま、し、る、一、甚、し、き、ま、ま、し、る
播、磨、若、繩、の、家、中、汝、が、諺、言、し、切、腹、し、る、瀧、見、堂、海、内
が、一、子、字、々、け、お、ち、い、さ、る、勿、論、子、細、あ、り、け、字、々、け、ハ、名、取、と
実、の、父、ハ、大、島、産、ま、る、よ、今、ま、ま、し、る、方、が、ら、ま、ま、し、る、母、小、松、と
ま、ま、し、る、け、さ、る、ま、ま、し、る、兩、親、の、敵、を、し、る、け、さ、る、ハ、士



ら〜幸村逸見と名を以て勝負せしめて罵れぬを
臆病未練の昔村逃んとて身を遁れくらぬ事
ぬれ胸と居居行々げ諸ハ大鳥を以て時
思ひあつては〜我もよほせり六は是れ
名を以てゆきんよの〜山名家の浪人幸村
逸見と相違ぬ〜子細あつて先年大々討つ
昔獲とてよ音妻の方へ下り〜が家々年経ぬ
ハ昔〜と此國と徘徊せし〜代官村
の入りて汝が母の仇を討つは〜海人の患となつて
かり討つ〜死骸とて是る言川に沈めよ〜

百三

名を以て上ハ幸村の〜何せ已も返り討つてとせん
と二尺五寸の〜を〜と抜く〜切つて
と流り名は秘術とて〜切合〜
聞り〜二人の女息とて〜は〜
無二子〜親の敵とて世が切つて〜
おとみやが討つて〜切つて〜
逸見死物狂〜とて〜
附也付入す時を〜切合〜
は〜敵討つ〜
男女の別を〜大勢集り見物せ〜

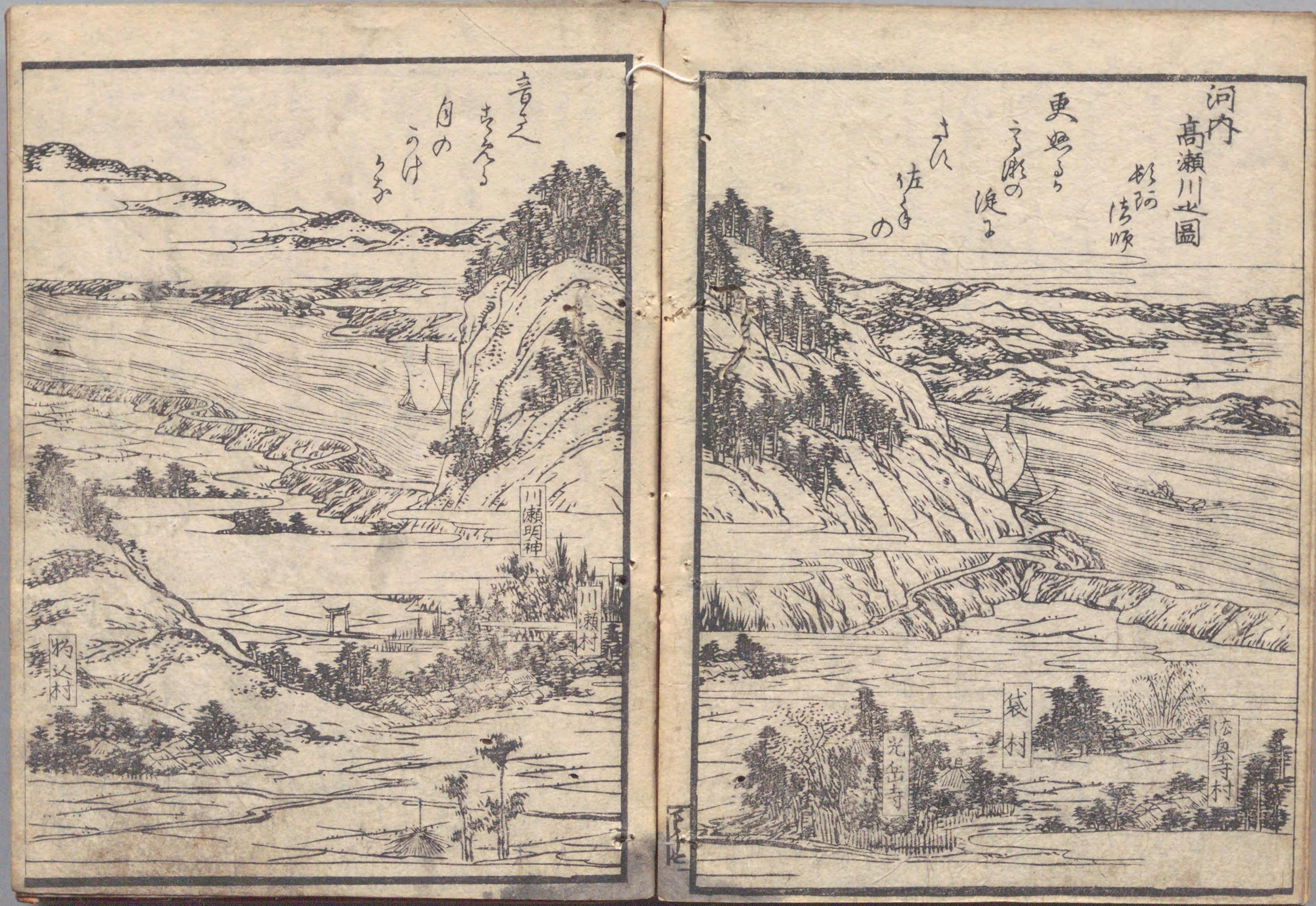




見へしりたる折しも所の代官大橋為馬は後の霖雨を
所く堤家きこる中海あり一友川通見分のあ侍人
大勢を連出せしがけし子と遠くそや急ぎ馳せり
見物あはさればまの戦場き落まかり負されし物
息を継んと双方へ立別きこり此時代官の不知り
うろく四方一人とせけて是と怒り固ませぼ人と両方へ
せし子細と尋ねきりふお寺村遠見がもれ左の二の
腕右の頬先ニテ所淺見字をゆへ八股一テ所ふ世の若の肩
先左の時ニテ所傳し竹まき落まこおまは六出一テおも
まきを代官のあまもてやんは後そハ農方もも子揚り若
下千六

繩の家申くえあまはあ夫婦の者の親の敵もゆれはく
うやうやのそ細くして十餘年はけ神ひ湖今日廻り
あひ又私うそ兄の敵うては百名を合掃身を付
んとるうし脚支配下と騒動仕はるり恐入ては
共ま矢と名戴し承り百何卒は憐愍のうへ年
来のお望しを連し一は後まは内見許一形ひ上
己并舌さりやうし本はれを為馬やうてめんも中
めらるるばをのものと遠見まおまのあやとら
られは遠見も流石武士あは合つたかしもはるあ
るをけりいふあしそ女の中めくサもおまはなるん





音之
 白の
 うけ
 うま

川瀬明神

川瀬村

物込村

河内
 高瀬川之圖

杉阿
 法師

更妙

之瀬の
 湍子

左の
 の

袋村

光岳寺

法興寺村



と上様一途を流すりたる見物の去氏委細の伏ハおれえ
と一と思ひやり皆袖と志がやうなる代官大橋藤馬四人
の者とさあぐよりのり杉後所一連帰里醫者とまの
宇の節花世が手麻と瘡治させられたる思ひのおり
多あれば早速痛しうすなり悩まもりりけしむ四人の
者は始終と具するの此肯と故主人山名右衛門督殿へ
通達あり一政豊敵討の孫子等と平一あぐべし
原三左衛門は佐付らき英子小拍の縁者たるよすの松次
吉方と申と差戻ぬよ此者を急ぎ町内より代官大橋
着るよ對面して流の禮と申おあさるなるなれば

下夫

も病も愈て流の如くもさへ流見字三而河妻
花世母志けさ差戻ぬ妹おす四人と引れ連て若流
うまゆり主人山名殿へはあさる言上とあり一うハ
政豊甚恨感しあひやうし空前へるさるれ御盃
と流りり艱難辛苦のやうしと申し名も志が
は流涙あり流見大を両家の知行と流し合
字と申す一おれりけその仰ふ方竹年男子
二人と儲て一人ハ流見一人ハ大書のの家督とて流
く血筋を相續つとせ忠勤と励む一又差戻
三年が妹とす年ハ幸しめて家中の内をま



208
2
690

東都

神田并慶橋
満留屋文右衛門
高砂町南新道
伊賀屋勘右衛門
板

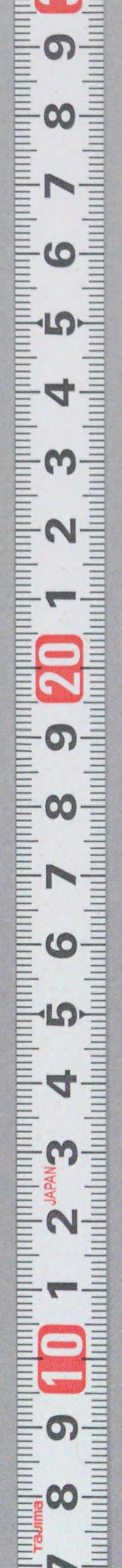
満まん相さう寄き談たん

近刻

五冊

文化三丙寅

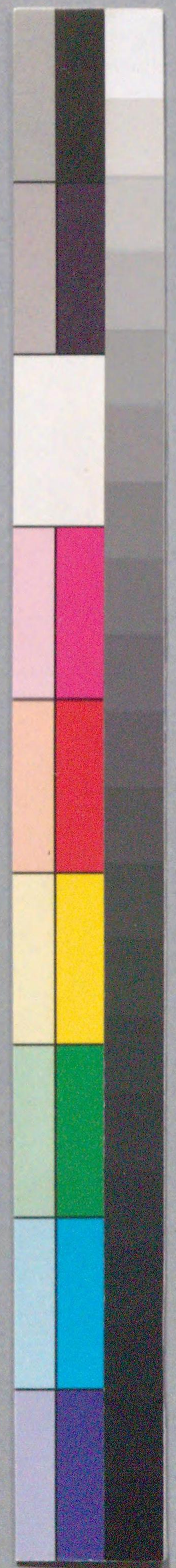
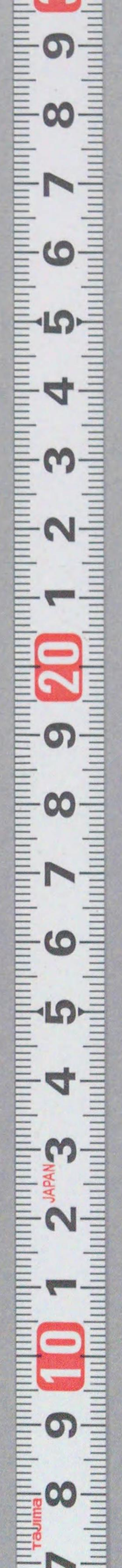
正月吉日

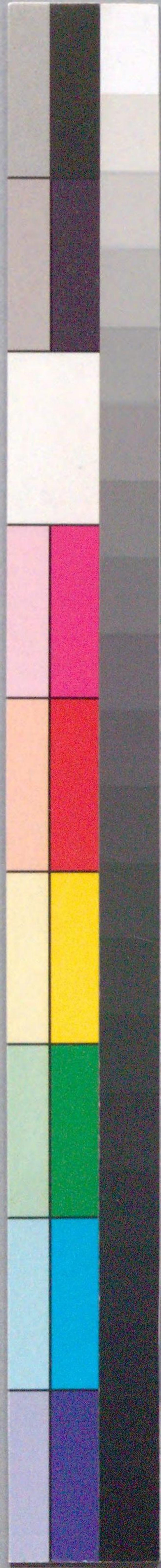


208
2
690

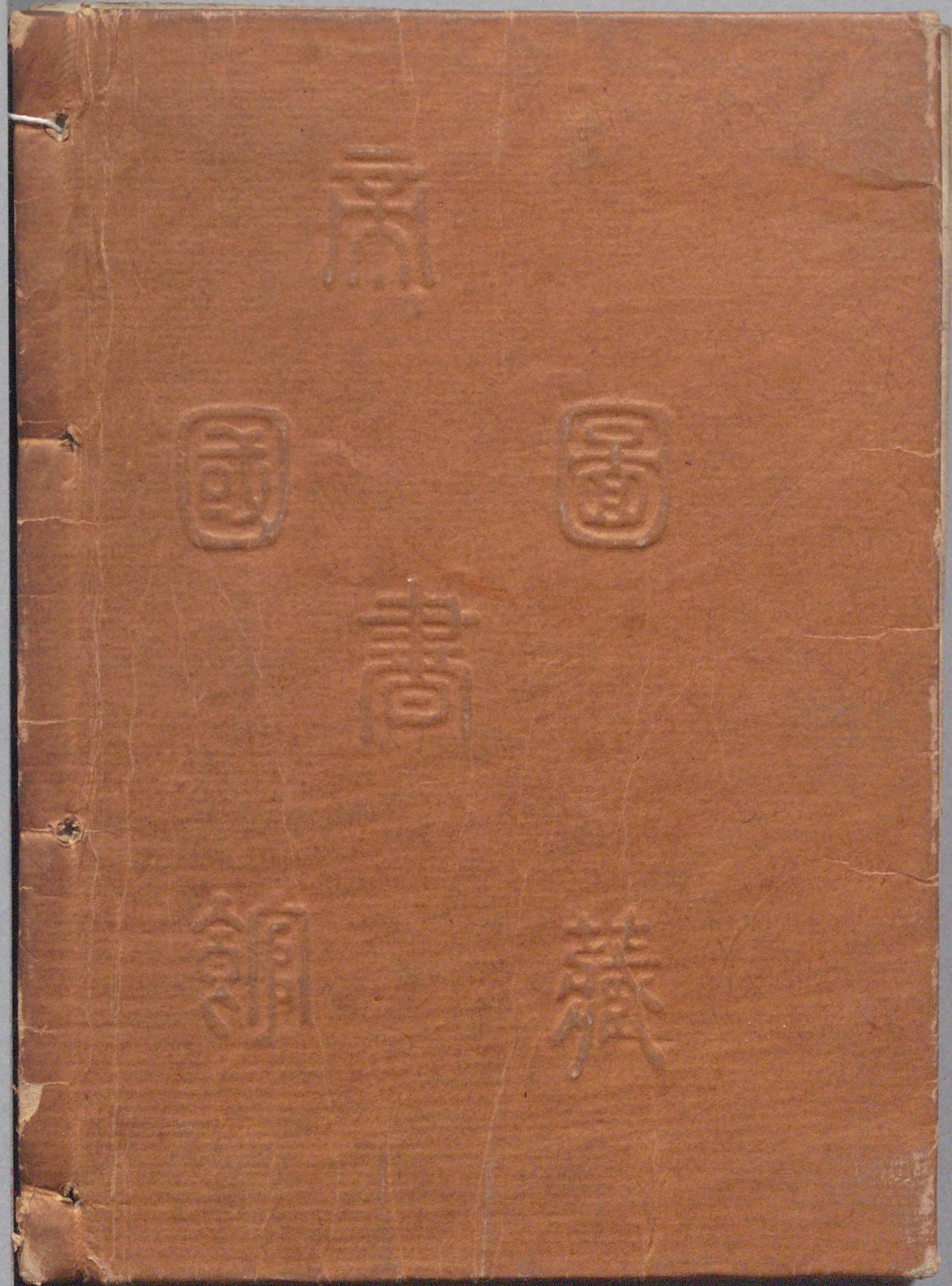
国立国会図書館 敵討女夫似我蜂 3巻 208-690

ガラス使用





国立国会図書館 敵討女夫似我蜂 3巻 208-690



ガラス使用

